

さいたま市長 4月定例記者会見

平成29年4月19日（水曜日）

午後1時30分開会

- 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
それでは、記者クラブ幹事社の共同通信さん、進行をよろしくお願いたします。
- 共同通信 4月の幹事社を務めます共同通信と申します。よろしくお願いたします。
それではまず、本日の記者会見内容につきまして市長から説明をお願いいたします。
- 市 長 皆さん、こんにちは。

いよいよ「第8回世界盆栽大会 in さいたま」の開催まであと1週間となりました。日本での開催は、第1回大会以来、28年ぶりとなります。さいたまスーパーアリーナで開催される世界最高峰・最大規模の盆栽展示会「日本の盆栽水石至宝展」をはじめ、武蔵一宮氷川神社やさいたま市大宮盆栽美術館でも記念展示などが行われます。

世界各国から大勢の盆栽愛好家がさいたま市を訪れます。本市では、精一杯のおもてなしで大会を盛り上げてまいりますので、多くの皆様のご来場をお待ちしています。

それでは、本日の議題に入らせていただきます。

市長発表：議題1 「次世代自動車・スマートエネルギー特区」（第2期）の認定について」

まず初めに、「次世代自動車・スマートエネルギー特区」（第2期）の認定について」ご説明をさせていただきます。

さいたま市では、平成24年度に「次世代自動車・スマートエネルギー特区」といたしまして地域活性化総合特区の指定を国から受けまして、暮らしやすく活力ある都市として継続的に成長する「環境未来都市」の実現に向け、さまざまな取り組みを行ってまいりました。

本日も説明する第2期の認定につきましては、さらに1つ先に行く取り組みを進めたいとの考えのもと、3つの柱を基本に事業期間の延長を行ったところ、国からも一定の評価をいただきまして、期間延長が認定された

ものでございます。

それでは、概要についてご覧いただきたいと思います。事業期間でございますが、2011年から5年間でありました特区の事業期間を3年間延長いたしました。2011年から2019年までということになっております。東京オリンピックの前年までに取り組みを実現いたしました。国内外に本市の取り組みをPRしてまいります。

コンセプトは、住民負担のない「徹底的な省エネ、温室効果ガスの削減」と「市内経済の活性化を両立」ということが1つ、それから国土強靱化の実現ということが2つ、そして3つ目としましては、さいたま市の強みであります「暮らしやすさ」をさらに向上させることとしておりまして、目標でございます暮らしやすく活力のある都市として継続的に成長する「環境未来都市」の実現を目指してまいります。

また、自治体負担の軽減による横展開可能モデルの実現もコンセプトとしておりまして、本市で実現をいたしました先導モデルの国内展開をしてみたいと考えております。

まず最初に、第1期に行ってまいりました「次世代自動車・スマートエネルギー特区」の主な成果についてご紹介いたしまして、その後、第2期の取り組みについての説明をさせていただきたいと思います。

まず、総合特区事業では、平時は地域の低炭素化、災害時は地域のエネルギーセキュリティの確保を目標として進めてまいりました。重点プロジェクトとしましては、「低炭素型パーソナルモビリティの普及」、2つ目として「ハイパーエネルギーステーションの普及」、そして3つ目として「スマートホーム・コミュニティの普及」、この3つの事業を推進してまいりました。

「低炭素型パーソナルモビリティの普及」につきましては、これまで国土交通省の「超小型モビリティ導入促進事業」との連携によりまして市内に11台のパーソナルモビリティが導入されました。今年度は、複合型マルチモビリティシェアリングといたしまして、実証的に導入する予定となっております。これによって、環境負荷の少ない車両の利用促進、既存のバス交通網を補完する地域交通サービスといたしまして、通勤、業務、余暇、レジャー等の移動におきまして、天候や人数など状況に応じた最適な

交通手段を提供してまいります。

今後は、公園、歩道等の特例措置、都市再生特別措置法を用いた活用でありますとか、あるいはコンビニ、ショッピングモール等の店舗へのポータの設置も目指してまいりたいと考えております。将来的には、再生可能エネルギーによります地域の移動手段の提供を行うことも視野に進めていきたいと考えております。

続きまして、「ハイパーエネルギーステーションの普及」ということについてでございます。これまで市内11カ所でこのハイパーエネルギーステーションの整備を行ってまいりました。そのうち5カ所は水素ステーションでございます。本田技研工業との連携で、ごみ発電による水素製造装置も整備をしてまいりました。

特に私としては、電気工業組合との連携によります電気会館のハイパーエネルギーステーションについてご説明したいと思っております。この電気会館では、夜間電力を活用しまして、昼間の電気量の平準化の一助となるエコアイスでありますとか、あるいはエネルギーマネジメントシステムに加えて、太陽光パネルと蓄電池を設置して平時のエコと災害時の電力供給を実現しております。

私が注目しておりますのは、この会館には埼玉県内の組合員が集まってくることから、会館自体をモデルとして普及が可能となることや、また次代を担う学生の育成の場になるといった普及の部分が大変重要であると考えております。ぜひ組合には、この学生さんたちを含めまして勉強会などを実施していくことによってさらに広げていただきたいと考えているところであります。

次に、「スマートホーム・コミュニティの普及」についてでございます。2017年の3月に特定事業の象徴的なプロジェクトでもございます「先導的モデル街区33戸」が整備をされました。この街区は、国土強靱化を推進いたしておりますレジリエンスジャパン推進協議会から表彰されるなど、国と市の考えが一致していることを示しているものと考えております。

この取り組みでは、住宅敷地の一部を共用化する手法によりまして、コミュニティを育むコモンスペースを創出しております。平時から地域住民の顔が見えるネットワークによる共助により、災害時にも強力な効果が発

揮されることを期待しております。また、コモンスペースの地下を活用するとともに、工事費を半減させる新しい手法によりまして電線等を地中化しております。事業性の確保と景観の向上、また災害時の電柱の倒壊の防止を実現しております。

また、住宅は高断熱、高気密の基準といたしまして、HEAT20さいたま地区基準を創設しており、当該住宅はその基準に適合した住宅でございます。平時のエネルギー利用、ヒートショック発生の軽減に加えまして、災害時には冬の無暖房時でも室内を13度以上に保つことができるということで、低体温症を防止するものとなっております。

これらの取り組みは、日本の住宅の約7割を建築しております中小工務店でも可能であるため、他都市への展開も期待しているところでございます。今回は33戸の街区を整備いたしましたが、今後第2期、第3期と進めてまいりまして、100戸を超えるスマートホーム・コミュニティを整備してまいりたいと考えております。

また、第1期の先導モデルをベースとして、例えば地中熱などの新たな取り組みについても検討してまいりたいと思います。レジリエンス性、つまり災害時に備えた強靱なまちづくりとなります「さいたま市発のモデル街区」を市域内に展開をして、低炭素化と災害に強いまちづくりに生かしてまいりたいと考えております。

こちらは、先月に開催いたしました街びらきのときのセレモニーでございます。副議長や、あるいは街区にお住まいの皆様、多くの方々の参加のもとに、こうしたセレモニーを行うことができました。また、この風船を飛ばす場面では、途中まで雨が降っておりましたが、この飛ばす瞬間は雨が止むと、こんな状況もございました。私が、真ん中に立っている写真ですが、この場所が敷地を共有化して整備したコモンスペースになります。

それでは、これからは、特区事業（第2期）の新規の目玉事業であります「さいたま版グリーンニューディール事業」についてご説明させていただきます。

特徴といたしましては、小池都知事も昨年発言をされておりましたけれども、資金用途を環境分野に限定したグリーンボンドの活用を検討しているところであります。この「さいたま版グリーンニューディール事業」を

制度化するに至った経緯としましては、現状、補助事業でやっておりますけれども、継続していくことが財政的な課題なども含めて困難であるということや、交付確認作業の負担も大きくなっております。何よりも補助は満額出ないということもございますので、補助があっても機器の導入ができない市民も多数いるという課題がございました。こういったものを解消していこうというものであります。

また、「スマートホーム推進・創って減らす」機器設置補助金の太陽光発電補助申請などについては、ここ最近はやや減少傾向にあるということもございます。この8年間の取り組みによりまして、「環境への関心層」の多くは既に実施をされたものと考えことから、今後は無関心層への取り組みを強化していく転機が来ていると考えております。

さらに、これまで補助金を提供するという形でありましたけれども、この補助金を出すということから、投資して、それを回収していくという形に転換をできないかということで検討してまいりました。自治体の負担を減らしながらも、CO₂の削減といった環境負荷の軽減だけでなく、市民の健康や生活の質の向上につなげてまいりたいと考えております。

そこで、初期費用が無料で、家庭や中小事業所のエコリフォームを実現する「さいたま版グリーンニューディール事業」の制度構築をしたいと考えております。そこにグリーンボンドを活用することをあわせて検討してまいります。

初期費用が無料でエコリフォームを実現することで市民にとってどういうメリットがあるかという点、冷蔵庫や電気便座など、こういった設備あるいは機器が新しくなって、また照明もLEDに交換ができて、しかもその上電気代が少し下がるということでありまして、電気代も下がり、設備も新しくなると、こういったメリットがあるということです。

そして、市のメリットとしては、市内の温室効果ガスの量が減少するということが見込めることとなります。そして、これまでは補助金を出すだけでありましたけれども、これからは投資という形になって、それをしっかり回収していくということで、持続可能な制度になるということでもあります。

さらに、新たな市場を創出して、市内事業者をエコリフォームの実施者

として活用すれば市内経済の活性化にもつながり、環境性、経済性、そして社会性が両立され、持続可能なモデルになると考えております。

仕組みは、左の図にございますように、例えば1万円だった月々の電気代がエコリフォームをすることによりまして、半分の5,000円ということになり、その削減分のうち4,000円分をこのリフォーム代金として複数年充てていくというものであります。もちろんリフォーム代金の支払いが終了すれば電気代は5,000円ということになります。

本事業のスキームとしては、簡単に申し上げますと、エコリフォームを実施することで得られます電気代の削減分を数年間このエコリフォーム導入費に充当していくというものでございます。こちらの図にもありますように、一般家庭の世帯の方はまず図の左側であります「チームしきん」となります特定目的会社にエコリフォームを申請していただきます。次に、特定目的会社がエコリフォームが可能かを審査をいたします。また、このエコリフォームは図上の市内企業で構成をいたします「チームさいたま」が実施する仕組みにして、環境と地域経済の活性化を両立させてまいります。

このエコリフォームの資金については、「①チームしきん」である特定目的会社から「②チームさいたま」であるエコリフォーム事業者へ工事代金の支払いがなされます。このときの支払いにこのグリーンボンド等を活用することを検討しております。一方で、回収の仕組みについては、一般世帯の方は「③チームでんき」である地域電力に電気料金としてこれまでより若干安い額をお支払いいただき、エコリフォームにより生じた電気料金の差額を地域電力から「①チームしきん」の特定目的会社にこのエコリフォーム費用として分割払いをされるという仕組みでございます。

次に、ここでは目指す事業スケジュールを示してございます。国内では初めての取り組みとなるため、様々な課題が出てくると考えておりますが、一つ一つ解決をしながら進めてまいりたいと考えております。特に平成30年1月から3月ぐらいの間にこのSPC（特定目的会社）を設立し、そして30年度にはグリーンボンドを発行し、事業を開始していきたい。特区3年間の中でしっかりとこの事業を進めていきたいと考えております。

最後に、想定する事業規模でございますが、太陽光発電を除くエコリフォーム費用は平均して約115万円とみております。最大で1,500億

円程度の市場を創出ができるのではないかと考えております。以上が総合特区についての説明でございます。

市長発表：議題2「大宮区役所新庁舎の基本設計について」

続きまして、「大宮区役所新庁舎の基本設計について」、その設計が完了いたしましたので、その概要についてご説明をさせていただきたいと思っております。

まず、ご覧をいただいておりますのが建築敷地の北東側から望んだ新庁舎の外観のイメージでございます。外観の特徴としましては、建物をシンプルなスクエア形状とすることで建物周辺に空間を確保して、そして氷川参道に面する東側には、テラスを設置する計画ということになっております。

また、かつて大宮は製糸工場が多数立地して発展してきた歴史がございます。新庁舎計画地にも製糸工場が立地していたことから着想を得まして、絹糸をイメージするシンボリックな外観になっております。

次に、計画の概要についてご説明させていただきます。新庁舎の建設地は大宮区吉敷町1丁目124番地1でございます。現大宮区役所庁舎から南に500メートルほどの位置に移転する計画となります。新庁舎には、現在高鼻町にございます大宮図書館も移転してまいります。

建物の延べ床面積は、屋根付きの駐輪場も含めまして約2万3,657平方メートル、構造は鉄骨造、中間層免震を採用しております。建物の規模は、地上6階、地下1階、最高の高さは33.1メートルになります。

この基本設計をまとめるに当たりまして、市民意見を施設計画に反映することを目的としまして、市民ワークショップを平成28年7月から9月にかけて4回開催いたしました。現在は、新庁舎の実施設計と並行いたしまして、建設地の既存建物の解体工事を進めておりまして、新庁舎の建設工事には本年7月頃に着手する予定となっております。建設工事に先立ちまして、6月に起工式を挙げることを計画いたしております。

次に、設計のコンセプトでございます。製糸で栄えました大宮の歴史から、「まちを紡ぐ」、「人を紡ぐ」、「時を紡ぐ」の3つをコンセプトといたしております。

まず、1つ目の「まちを紡ぐ」ということですが、新庁舎の恵まれた周辺環境を生かして一体性を持たせることで、まちと建物、また大宮とさいたま新都心の間で賑わいを発信する拠点となることで、2つのまちを紡いでまいります。

そして、2つ目の「人を紡ぐ」についてですが、市民に開かれたスパイラル空間などの様々仕掛けが人々のアクティビティを紡いでまいります。

そして3つ目、「時を紡ぐ」ですが、氷川神社とさいたま新都心をつ結ぶ氷川参道の軸線上に絹糸をイメージしたシンボリックな庁舎を整備し、大宮の歴史を未来に紡いでまいります。

次に、配置計画ですが、建物は、シンプルなスクエア状にするということで、建物の周辺に空間を確保して、周辺の環境との調和を図っていくという配置になっています。

また、新庁舎には西、北、東の3方向からアプローチできる計画となっております、大宮駅や氷川参道、また敷地周辺からの来庁者の利便性の向上を図ってまいります。駐車場には、北側の市道より出入りをする計画となっております。

次に、階層の構成ですが、まず、1階から4階までの低層部を一般利用エリアにしてございます。5、6階の高層部を専門エリアと位置づけております。新庁舎の主な機能であります大宮区役所については、この1階と2階に配置をしております。また、大宮図書館の図書館機能部分については2階と3階に配置をしております。

また、図の中に肌色で示されました部分が、フリースペースや展示スペースなどの市民の交流や賑わいを創出する機能となりますけれども、図書館の附属施設として、区役所との連携を図るために、1階から3階にかけて配置をしています。

また、4階には保健センターと障害者更生相談センターを配置しまして、また5階、6階には北部建設事務所などの専門的な部門を配置しております。

次に、施設の特徴ですが、まず、1階から3階にかけてはスパイラル状に連続する3つの吹き抜け空間を有する構造となっております。

この吹き抜け空間には、1階のエントランス、フリースペースから2階の図書館のエントランスへ、またさらには3階図書館オープンスペースへと、階層を上がるごとに「動」から「静」へ変化する空間としまして、市民の交流を促す憩いの場として配置しております。

こちらは、1階の吹き抜け空間でありますフリースペースのイメージでございます。このフリースペースは、通常時は新庁舎を訪れた方の待合スペースや憩いの場としても、利用していただき、またイベントがある際にも活用ができると考えております。今見ていただいているのは、まさに音楽のコンサートをやっているときに利用されるイメージで表現されているものであります。また、パースの中央部のエスカレーターの先が、真っすぐ行きますと大宮図書館のエントランスになっております。

こちらは、2階の吹き抜け空間でございます。図書館のエントランスのイメージでございます。奥にある階段状の空間にはステップリビングと呼んでおりますミーティングや語らいができるグループ席を配置しております。この階段状の空間の先が図書館のメインフロアになります。また、図書館内には2階、3階をつなぐ専用のエレベーターを設置しております。

こちらは、3階の吹き抜け空間であります図書館のオープンスペースのイメージでございます。開放的な吹き抜け空間によりまして、快適な開架スペースとなっております。

最後に、大宮区役所新庁舎基本設計についての市民への広報につきましては、概要版リーフレットをホームページへの掲載及び大宮区内の図書館、また公民館に配置しております。

また、さいたま市報5月号に併せまして、市報と一緒に大宮区内の全戸にリーフレットを配布いたします。

また、説明会をご覧の日程で開催いたします。4月22日土曜日、23日曜日の2日間にわたって、この内容について市民への説明を行わせていただく予定となっております。

議題の2については以上でございます、私からの説明は以上でございます。

議題1に関する質問

○ 共同通信

まず、市長からの説明に対して幹事社から質問させていただきます。

スマートエネルギー特区の関係なのですけれども、この目玉のリフォームの関係で初めての事業とおっしゃっていたのが、どの部分が初めてなのかということをもう少し詳しくお伺いしたいのと、あと対象数として13万5,000戸を想定されるということなんですが、いきなり全てをリフォームするわけではないと思うので、当面、例えば初年度はどれぐらいやるとか、何年かけて13万戸をリフォームしていくとか、その辺の見通しについて何か決まっているとか、現時点で言えることがあればお聞かせください。

- 事務局 ご質問の「どの部分が初めて」というところでございますが、自治体で行っている事例はございませんで、規模は小さいのですけれども、民間がこういったスキームで実施している事例がございます。これは静岡ガスさんがやられている事例なのですけれども、電気代そのまま払いということで、冷蔵庫等を購入したときに、その初期費用を家庭の方は負担をせずに、金融機関などが費用負担をしてその電気代の差額を払うというスキームはあるのですけれども、実際、今回取り組む「ここが初」というところは、投資回収の仕組みの中に、先ほど市長からもご説明がございましたように、グリーンボンドを活用すると。それと、SPC（特定目的会社）をかませると。そういったところが新しい取り組みとなっています。

2点目の世帯数ですけれども、この後、この「グリーンニューディール事業」の事業化検討を行う中で検討してまいるところでございます。今の対象世帯は、これだけの世帯になっておりますけれども、今後この事業化検討の中で数字のほう確定してまいりたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

- 共同通信 1点だけ今の部分で。冷蔵庫の買い換えなどの例を出されてはいたけれども、その初めてというのはリフォームをすることが初めてなのか、それとも初期費用なしでエコな買い換えをすること自体も初めてなのか、その辺はいかがなのでしょう。

- 事務局 自治体としての取り組みは初めてでございますので、エコリフォームによる初期投資無料の買い換えについても初めてでございますし、その投資回収といったスキームについても初めての取り組みとなります。

- 共同通信 ほかに市長からの説明に対してご質問があればお願いします。

- 埼玉新聞 埼玉新聞と申します。
今のところで関連してなのですけれども、「グリーンニューディール」とか「グリーンボンド」という横文字がよくわからないのですけれども、これ日本語でどのようなものか説明をお願いしますか。
- 事務局 「グリーンボンド」につきましては、いわゆる企業や地方自治体が再生可能エネルギー事業などグリーンプロジェクトに資する事業に要する資金を調達するための手法でございます。
- 読売新聞 手法というのは、どういうふうなものでしょうか。
- 事務局 先ほどスキームの中でも書かせていただいたのですけれども、いわゆるSPCが資金調達をする特定目的会社ということで、一般家庭の方がエコリフォームの申請をする先になるのですけれども、そちらが資金調達を行って、最終的には一般家庭の方がエコリフォーム会社と契約を結ぶのですけれども、エコリフォーム会社に支払う相手方が特定目的会社、SPCです。そのSPCの資金調達の手法として、この債券を充てさせていただくことを考えております。
- 読売新聞 「ボンド」というと、通常辞書なんかでは公債証券とかという意味合いになるのですけれども、その辺のことを指しているのですか。ちょっと横文字が本当に今回は特に多くて、よくわかりません。だから、横文字等出すとき、新しい言葉出すときは、ちょっと説明とかつけていただけませんか。
- 事務局 はい、わかりました。
- 埼玉新聞 「グリーンニューディール」もお願いします。
- 事務局 では、片仮名言葉が多かった部分については大変申しわけなかったのですが、後ほどその辺については、こちらの方からご説明差し上げるようにしますので、よろしくお願いします。

議題2に関する質問

- 埼玉新聞 区役所の方なんですけれども、図書館について、資料の中に数字が入っていたら申しわけないんですけど、区役所も図書館も開放的な広々としたスペースが感じられるつくりになっているんですけど、図書館の蔵書数というか、本の数ですけれども、そういうのは今よりも増えたり減ったりとか、どのくらいになる予定なんですしょうか。

- 市長 規模もあわせて申し上げたいと思いますが、図書館の機能部分は約2,400平方メートルでございます。附属施設部分は約1,600平方メートル、あわせまして約4,000平方メートルでございます。現在の大宮図書館は、約3,500平方メートルでございますので、今までよりも広いということであります。
- それから、収容可能冊数は36万冊でございますが、開館時には約30万冊でスタートする予定でございます。ちなみに、現在の大宮図書館の所蔵冊数は約25万冊でございます。
- 埼玉新聞 それに付随して、例えばさいたま市内の図書館だと、36万冊は規模的にはどのくらい、市内に何番目に大きいとか、どのくらいの規模になるのでしょうか。
- 事務局 面積に関しましては、中央図書館が一番でございます、その次の2番目になります。蔵書冊数でございますが、30万冊でいきますと、市内で4番目ぐらい(3番目)の図書館になります。
- 読売新聞 今のところに関連しまして、中央図書館の広さは今どれぐらいになるのでしょうか。それからあと、36万冊で換算すると市内で何番目になるか、教えてください。すぐ出なければ、後でお願いします。
- 事務局 では、後で。（会見後追加：中央図書館延床面積5,799平方メートル。蔵書冊数は36万冊で換算しても市内3番目の規模。）
- 朝日新聞 朝日新聞と申します。
- 大宮区役所に関連して伺いたいんですが、今東口では大門の再開発も今年度着工が予定されていて、いろいろほかにもまちづくりの団体が、いろいろ計画を胸に抱いて活動されていると思うのですが、そういう活動に対して、この新庁舎の動きというのはどういうふうに影響することを市長としては望んでいらっしゃいますか。
- 市長 さいたま市は、ご案内のとおり2都心4副都心という考え方で、今都市機能の拡充であったり、多極ネットワーク型の都市構造をつくっていくという方針でまちづくりを進めています。その一つの都心がこの大宮駅とさいたま新都心駅、この2つの駅周辺を1つの都心と位置づけています。そういう意味では、大宮区役所と複合的な公共施設ができることによって、まさにさいたま新都心駅と大宮駅、これをしっかりとつなぐという役割を

果たすこととなります。ちょうどすぐ脇には氷川参道がずっと続いているわけでありますけれども、さいたま新都心駅から大宮駅あるいは氷川神社にかけて、こういったまちを、今、道もつながっておりますし、また人の流れ、回遊性を高めていく中間的な役割、中間でつないでいくという大きな役割を持っていると考えております。

○ 朝日新聞 それで、今新都心と大宮がつながるような役割を持つ区役所ができると。そういうものができることによって、今まだ具体的には動き出してはいない東口のいろんな再開発に向けた動きとか取り組みというものも刺激になるというか、進んでいくというふうにお考えですか。

○ 市 長 今特に東口のことではいいますと、連鎖型のまちづくりということで進めておりますけれども、東口駅周辺には公共施設が幾つか分散して配置をしております。今東口のまちづくりを進めていくためには、なかなか空いている土地がないというような状況もございますので、さいたま市としては公共施設を複合化したりしていく中で、空いているスペースをつくり出しながら、1カ所終わるとその次の場所という形でまちづくりの拠点の整備をしていこうという考え方でやっております、まさにその第1号になると。それがこの大宮区役所の新庁舎ということになるかと思えます。

それ以外にも、駅前では今大門町2丁目中地区の再開発事業もございませうけれども、今後そういった拠点ごとに機能を高めるような整備をしていくことによって大宮駅周辺とさいたま新都心駅周辺をしっかりとつないで、一つの大きな都心としての機能を拡充することによって、東日本のまさに顔になります、玄関口にもなります、そういったまちづくりにつなげていきたいと考えております。

○ 読売新聞 読売新聞です。

大宮区役所の新庁舎について1点、総工費的にはどのぐらいかかる見通しでしょうか。

○ 市 長 今回の大宮区役所の総事業費という言い方をしておりますが、今回はPFI—BTO方式で実施しております、事業契約金額では20年間の維持管理運営費を含めて約197億6,000万円でございます。そのうち施設を整備するということだけの金額でいうと、約105億円でありませう。ですから、施設をつくるということでは建設費105億円になります。

○ 読売新聞 関連して、現在の大宮区役所の取り壊しと、あと移転も含めた金額というのは幾らになるのでしょうか。

○ 市長 後ほど。(会見後追加：現在の大宮区役所解体費用は未定(未算出))

幹事社質問：

① 市長選への市民の関心や注目度合いについて

② 世界盆栽大会にかける気持ちや期待について

③ 昨年度までの国の基準で待機児童数がゼロになったことについて

○ 共同通信 よろしいでしょうか。

それでは、幹事社の質問に移らせていただきたいと思います。質問はまとめて行いますので、よろしくお願いいたします。

まず、市長選の投開票までおよそ1カ月となりましたが、現状での選挙への市民の関心や注目の度合いについて、どのようにお感じになっているか、ご所見をお聞かせください。

2点目ですが、開催が間近に迫った世界盆栽大会にかけるお気持ちや、どのようなことを期待するかといったことについてお聞かせください。

3点目ですが、昨年度までの国の基準で待機児童数がゼロになったことについて、ご所見をお聞かせください。

以上です。よろしくお願いいたします。

○ 市長 それでは、幹事社の質問に順次お答えしたいと思います。

まず、1点目の市長選についてのご質問からお答えをさせていただきます。5月7日の告示、5月21日の投開票のさいたま市長選挙、いよいよ告示、あるいは投票までかなり近づいてきたわけでありますけれども、今回のさいたま市長選挙では、日本全体で少子高齢、人口減少社会を迎えた中で行われる大変重要な選挙であると認識をしております。

私は、これからの5年から10年が、さいたま市にとって大変大切な時期であると考え、またそのようにお話をしてまいりました。さいたま市民の皆様が、これからのさいたま市の舵取りを誰と一緒に取り組んでいくのかということが問われる、大変重要な選挙であると認識しております。

選挙戦におきまして、私自身は立候補予定者として政策論争を通じて、さいたま市政に対する認識と課題、またこれからの夢やビジョンなどを訴

えていきたいと、そしてそれらを他の候補者と訴えながら、選挙戦に挑んでいきたいと考えております。

現状としては、4月から駅頭等、私自身もスタートしました。最初の頃は、少し皆さん選挙があるということについて、必ずしもびんどこないという感じもございましたけれども、ここ数日になって反応が少し変わってきたなど。選挙があるということ、皆さん理解をし始めたなどという感じはいたしているところでありますが、まだまだ選挙の盛り上がりについては、十分でないのではないかという印象を持っているところでございます。

昨今、特に地方選挙、中でも単独で行われる首長選挙については、投票率が大変厳しい状況にございますので、何とか投票率が下がらないように、また上がるように全力を挙げて、私たちも運動としてもしっかり取り組んでいきたいと思っております。

それから、2つ目のご質問でございます世界盆栽大会についてでございます。ちょうど第1回目の大会、これがさいたま市、旧大宮市で行われたわけでありましてけれども、それからちょうど28年という歳月がたちました。その際には、世界的に盆栽が大きく広がっていく、そんな大会になったと認識をしておりますが、今回は、世代を超えて、また性別を超えて愛される盆栽の可能性を世界に向けて発信する大会にしていきたいと思っております。

また、この大会を契機として、さいたま市が誇る盆栽文化の発展、あるいは特に若い世代、あるいは女性により一層関心を持っていただけることを大いに期待したいと思っております。また、併せてさいたま市のよさを皆さんに知っていただく貴重な機会と捉えて、世界中からたくさんの方々に御越しいたしますので、十分におもてなしをし、また盆栽にちなんだいろいろな事業を行う中で、その魅力を発信していきたいと思っております。

それから、3点目の保育所等の利用待機児童数についての所見ということでございます。私は、「市民一人ひとりが幸せを実感できる都市」を実現するために、「しあわせ倍増プラン2013」という計画の中で、平成25年から28年度末までの4年間に、認可保育所の定員を3,600人増やす目標を掲げて待機児童ゼロを目指して、ここ4年間全力で取り組んできた

ところでございます。

この間、取り組みを進めてきた結果、この4年間で目標を大きく上回る施設整備を行って、定員19人以下の小規模保育施設なども含めると、6,400人以上の定員の増加を図ってきたところです。当初の計画以上に子育て環境の整備を図った結果、目標としておりました待機児童ゼロを達成することができたと考えております。

今後も「子育て楽しいさいたま市」を目指して、保育を希望される方が一人でも多く保育施設を利用できるようにするなど、様々な子育て支援策を積極的に展開してまいりたいと思っております。そして、あわせて子育て世代の不安を解消して、保育の質の低下をさせることなく安心して子育てできる環境を引き続き整えていくことに全力を挙げていきたいと思っております。

幹事社質問①に関する質問

- 共同通信 ありがとうございます。時間の関係もありますので、私から1点だけ。
選挙の関係で、盛り上がりが十分でないという印象を持っていたという話でありましたが、その要因はどのようなところにあるとご自身分析されているか、お答えください。
- 市長 いろいろな捉え方はあろうかと思いますが、1つは、幾つかの選挙が複合的に行われるタイミングですと、新聞社さんやテレビなど、さまざまなメディアで報道されたりするわけでありませけれども、どうしても単独の地方の首長選ということになると、やはりどうしてもそういったメディアの露出度も下がってくるというようなこともございますし、また4年間の一つの、あるいは私にとっては8年間の一つの成果が問われる選挙になるのだろうと思えますけれども、現時点では大きな争点となるような部分は少ないというようなこともあるのかもしれない。
いずれにしましても、私としてはこれまでも言ってきましたように、「運命の10年」という言い方をしておりますが、人口が減少するまで、もう本当に10年ぐらいの期間しか残っていない中で、人口減少をいかに先に延ばしていくのか、あるいは急激に進んでいく高齢化をできるだけ緩やかにしていくのかが問われる、その準備ができる貴重な10年間ということになり、非常に重要な役割、あるいは非常に重要な時期に行われる選挙に

なると思っておりますので、その辺の重要性というものを十分に市民の皆さんに理解をしていただきながら、その中でどういう選択をしていただけるのか、しっかりと私たちも政策論争をしながら、市民の皆様に、より多くの方々に関心を持っていただけるように、全力で取り組んでいきたいと考えております。

- 共同通信 幹事社からの質問に関連して質問がある社はお願いいたします。

幹事社質問③に関する質問

- 朝日新聞 待機児童に関連した質問なのですが、さいたま市は保育所だけではなくて、いわゆる放課後児童クラブというか、学童保育のほうも力を入れなければというご認識で取り組まれていると思うんですが、一方で運営主体が親御さん中心ということもあって、なかなか課題とかもあるようなのですが、市長ご自身はこれに関してどういうご認識をお持ちでしょうか。

- 市長 これまでは、どちらかという保育所を整備するというところに重点的に取り組んで、もちろん放課後児童クラブも計画をつくってそれなりに、これも予定以上に増やして整備をしてきたところでもありますけれども、今お話のありましたとおり放課後児童クラブについていいですと、主体が、いわゆる放課後児童クラブに子供を預けている保護者の皆さんが中心となってNPOなどをつくって、運営されているというような状況がございます。必ずしも十分な運営ノウハウがあるわけではないという状況もございます。

その中で、これまでもさいたま市としてはいろいろな形で運営に当たってのサポートをしていこうということで、人材の育成であるとか人材を確保していくための取り組みであったり、あるいは様々な事務的なことをしていく上でのサポートであったり、そういったことも併せてやってきたつもりでありますけれども、今後、保育所ももちろんでありますけれども、放課後児童クラブの拡充ということについても、引き続きしっかりと取り組んでいく必要があると認識しております。

- 共同通信 よろしいでしょうか。

それでは、そのほかに質問のある社はお願いいたします。

その他：千葉県松戸市の事件について

○ 埼玉新聞 埼玉新聞と申します。

小学生の登下校の安全対策についてお伺いいたします。先日、千葉県松戸市で登校中の小学生9歳の女の子が行方不明になって遺体で見つかるという痛ましい事件がありました。それで、逮捕された容疑者が女の子の通っている学校のPTAの会長ということで、児童の見守り活動に参加する立場だったんじゃないかということが報道でされております。

この事件に対しての受けとめと、さいたま市では子供を不審者から守る学校安全ネットワークとかを推進しているのですが、こちらへの影響ですとか、あとこの事件を受けてということで市教育委員会への呼びかけですとか、安全対策について何か新しい活動等がございましたら教えていただけますか。

○ 市長 それでは、ただいまのご質問にお答えしたいと思います。

このたびの千葉県で発生いたしました小学校3年生の女児の殺害事件について、この容疑者が保護者会の会長であったことや、見守り活動に参加していたことなどの報道に、大変大きな衝撃を受けております。私自身も、過去に小学校のPTA会長をさせていただいたこともございますし、また今も市長になってからも学校訪問などをさせていただき、登校時の子供たちの様子も見ておりますし、それを支えてくださっている市民の皆さん、あるいは保護者の皆さんが交差点や、あるいは様々な場所で子供の安全を守ってくださっている、時には子供たちの通学班と一緒に学校に登校してくれているという様子を見てきているところでもありますけれども、今回こうした事件が起こったということについては、この事件が事実であるということであるならば、大変強い憤りを感じているところでもございます。

さいたま市では、これまでも多くの人の目で子供たちを見守る「学校安全ネットワーク」を推進してきました。その中で、PTAや自治会の方々によりますこの見守り活動というのは、子供たちの安全確保に重要な役割を担っていただいております。今後も、これらをさらに強化をして、引き続き地域の方々にお力添えをいただいて、子供の安全確保に万全を期していきたいと思っております。

○ 埼玉新聞 教育委員会とかに何か指示みたいなものとか。

○ 市長 PTA会長や見守り活動に参加されていた方が関わっていると、あるいは

はその方が容疑者になっているということについては非常に衝撃的なこと
なのですが、それに臆することなく、さいたま市がこれまで進めてきた、
地域の方々のたくさんの目で子供たちを守っていくというこの活動は、こ
うした事件が起こっても、決して弱めるものではないと思っておりますの
で、引き続き胸を張って取り組んでほしいと申し上げておりますし、それ
らをむしろ強化をして、より多くの方々の目で見守ってくださることが子
供の安全に必ずつながっていくと思っております。

○ 共同通信 よろしいでしょうか。

それでは、質問を終わらせていただきます。

○ 進 行 以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。

なお、次回の開催は5月2日火曜日、1時半からです。よろしくお願
いいたします。

ありがとうございました。

午後2時23分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したも
のを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）と
し、下線を付しています。